

エゾシカワーキンググループ経過報告・今後の予定

1 H20シカ年度 第一回エゾシカワーキングの概要（6月25日開催）

(1) 主な検討事項

- ・前回ワーキング以降の実施結果等の報告
- ・H20シカ年度知床半島エゾシカ保護管理計画実行計画（改定案）について検討・了承

(2) 知床岬における密度操作実験の実施結果の報告

- ・エゾシカの採食圧を軽減するため、エゾシカの越冬個体数を半減させることを目標に、3年計画の1年目として、エゾシカの越冬期である平成19年12月から平成20年5月まで実施
- ・知床岬台地岩峰上の定点からの射撃と森林内の巻き狩りなどの手法により捕獲
- ・メス成獣120頭の捕獲目標に対して、メス成獣の捕獲頭数は89頭
（総捕獲頭数は132頭）
- ・エゾシカの動向として、警戒心が予想以上に高かったこと、5月には知床岬から分散していったことがわかった
- ・実施に当たっては、流氷の動向、天候状態により実施の可否が左右された

表 捕獲頭数の概要

捕獲頭数の概要	12月	1月	4月	5月	合計
総捕獲数	32	1	82	17	132
うちメス成獣	23	1	57	8	89

2 主な検討課題

(1) 捕獲目標と捕獲効率の向上

- ・知床岬の密度操作実験については3年間で越冬数を半減させることを目標
- ・今シカ年度の捕獲目標はメス成獣120頭以上
- ・次期シカ年度の捕獲目標はH21年に行う航空センサス結果により見直す
- ・捕獲個体取扱いのあり方も含め捕獲効率をどのように上げていくのか今後の課題とされた

(2) 希少猛禽類保全とエゾシカ管理との両立

- ・希少猛禽類を保護しながらエゾシカの個体数管理をどのように行うのかは非常に難しい課題であり、関係者間の情報共有を図るような取組を進める

(3) 長期的なエゾシカ保護管理のための指標

- ・長期的な管理のため、調査研究と指標開発に向けた技術的な議論を進めていくべき

(4) シレットコスミレへの食害

- ・7月に高山帯である知円別岳分岐から東岳山頂直下の周辺において、シレットコスミレにエゾシカによるものと思われる食痕と周囲にエゾシカの足跡を確認。
- ・その後の調査では、新しい食痕は見つけられず、採食された株も地下茎から新葉を出し回復傾向を確認。
- ・このため、今回のエゾシカによる採食は一過性のものと考えているところ。

3 今後の主な予定

(1) 知床岬における密度操作実験

- ・メス成獣120頭以上の捕獲を目標に、平成20年11月から平成21年5月の越冬期に実施予定

(2) H20シカ年度 第2回エゾシカワーキング（平成21年1～2月頃開催予定）

- ・ H20シカ年度実行計画の実施状況の報告、評価
- ・ H20シカ年度における今後の実施予定の確認・検討
- ・ H21シカ年度に向けた意見等聴取
- ・ 長期モニタリングの項目、指標、評価基準に関する検討